

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2017年8月号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第7回仙台国際音楽コンクール 【2019年開催決定!!】

第6回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会

キム・ヒョンジュン ピアノリサイタル 【東京公演】 演奏評

伊熊 よし子 (音楽評論家)



仙台国際音楽コンクールは、これまで実力派の個性的なピアニストを何人も世に送り出してきた。彼らはこのコンクール優勝・入賞後にさらなる飛躍を続け、他の国際コンクールに参加してより自分の納得いく結果を探求したり、仙台国際音楽コンクールに参加したことで自分の音楽の足りないところに気づき、さらに研鑽を積んだり、その道はさまざまである。

「コンクールはスタート台」といわれる。けっしてゴールではなく、優勝や入賞に輝いてから本当の闘いが始まる。とりわけ優勝者は、「仙台国際音楽コンクール優勝者」としてのレッテルが貼られ、常に最高の演奏を求められる。いずれのステージにおいても優勝者の名に恥じない演奏を行わなければならない、それらは若い演奏家にとって大変なプレッシャーとなる。

第6回仙台国際音楽コンクールのピアノ部門の優勝者キム・ヒョンジュンは、そのプレッシャーをいい緊張感に変えていた。6月22日に浜離宮朝日ホールに登場した彼女は、非常に自然体のリラックスした表情をしていたからである。

プログラムはモーツァルトのピアノ・ソナタ へ長調K280からスタート。バイエルン選帝侯の侍従を務めていた音楽愛好家、デュルニッツ男爵のための6つのソナタの第2曲で、これらは19歳を迎えるモーツァルトが初めて書いた本格的なソナタである。その若々しくかろやかなソナタをキム・ヒョンジュンは力強い踊りを披露するような、躍動感あふれる響きで弾き進める。タッチが非常に強靱で深く、第3楽章のプレストなど、疾走するような動きを見せた。

次いでシューマンの「謝肉祭」が登場。これは謝肉祭の仮装パーティの道化やさまざまなキャラクターが音で表現されている。華麗で物語

性に富み、シューマンの遊び心が満載の作品。キム・ヒョンジュンは20曲のストーリーをあたかも役になりきったように表情を変え、鍛え抜かれたテクニックを存分に披露しながら嬉々としてピアノと対峙した。

後半はプロコフィエフのピアノ・ソナタ第2番から始まった。ここでは、「体幹の強いピアニスト」という印象を強く抱いた。スポーツでもよく使われるが、体幹が強いとは、動的・静的に適切な姿勢が維持できることを示す。彼女の場合は、重心がしっかりし、地に足が付いた演奏。ロシア作品の深々とした打鍵、楽器を大きく豊かに鳴らし、存分にうたわせること、レガートを大切にすることなどが確実な形で出来上がっており、プロコフィエフの斬新なリズム、鋭利な表現、個性的な和声などが強い主張とともに伝わってくる。

最後は、ショパンのピアノ・ソナタ第3番で締めくくり。ここでまた、さらなる体幹の強さを見せつけた。冒頭の印象的な下行音型から強靱なタッチを聴かせる。それは第2楽章の「スケルツォ」まで一瞬たりとも弛緩することなく続き、第3楽章の「ラルゴ」に至り、ようやく甘美で穏やかな空気のみなぎった。しかし、それもほんのひとときのこと、第4楽章の「プレスト」では再びテンポがアップされ、リストの「超絶技巧練習曲」さながらのはげしさをのぞかせ、フィナーレまで一気に突っ走った。

キム・ヒョンジュンのピアノは、はげしく強く、熱気を帯びている。緊張感をはらみ、集中力を全開させ、聴き手にも同様の集中力を促す演奏である。韓国のピアニスト特有の芯の強さが全編を覆い、多少のことでは動じないメンタルの強さを感じさせる。これが優勝の栄冠に輝いた大きな理由だろう。

今後はどのようなレパートリーが増えるのだろうか。モーツァルトやロマン派の作品が得意のようだが、ロシア作品をより深めることを希望したい。強靱な打鍵と主題のうたわせ方、ピアノを豊かに鳴らす奏法は、ロシア作品に向いていると思うのだが…。

キム・ヒョンジュン ピアノリサイタル 【東京公演】 概要

日時：2017年6月22日（木）19：00開演

会場：浜離宮朝日ホール

演奏曲目：モーツァルト：ピアノ・ソナタ へ長調 K280

シューマン：謝肉祭 op.9

プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ 第2番 二短調 op.14

ショパン：ピアノ・ソナタ 第3番 口短調 op.58

(アンコール) グリンカ=バラキレフ：ひばり



■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/

第6回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会

キム・ヒョンジュン ピアノリサイタル【東京公演】演奏評

道下 京子（音楽評論家）

第6回仙台国際音楽コンクールから1年を経て、ピアノ部門の優勝者キム・ヒョンジュンが東京でリサイタルを開催した。

仙台のコンクールでは、私はファイナルで彼女の演奏するコンチェルトを2曲（モーツァルト《ピアノ協奏曲 K459》とブラームス《ピアノ協奏曲 第1番》）聴いた。コンクール当時の彼女は、2010年にパデレフスキ国際ピアノコンクールで第2位を受賞するなど、すでにいくつもの国際コンクールの入賞歴があり、韓国国立芸術大学を経てアメリカのジョンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院で研鑽を積んでいた。

現在も、ピーボディ音楽院に在籍しているというキム。当夜のリサイタルでも、彼女は持ち味である高い集中力を遺憾なく発揮した。

コンクール当時の彼女の演奏について、「しっとりとした質感の美しい音の持ち主であるが、その音は管弦楽の響きに埋没することはない」と私はレポートした。今回の東京でのリサイタルで取り上げられたモーツァルト《ピアノ・ソナタ》K280でも、彼女の美点は見事に示されていた。指先の鋭敏な意識から生み出される生き活きとしたリズムと、同時に彼女特有の愛らしく清らかな感性に満ち溢れたモーツァルトである。このソナタはシンプルであるが、それを彼女はニュアンス豊かに表出した。明朗な第1楽章提示部においては音の動きや色彩の変化を細やかに表わし、続く展開部では、感情を吐露するかのようにドラマティックに表現し、提示部との対比を鮮明に描き出している。重い憂いに支配される第2楽章でも、ほの暗い情熱を掻き立てるように音楽をまとめ上げる。そしてフィナーレは、快活な動きのなかに気品を感じさせる演奏であった。

続くシューマンの《謝肉祭》は、曲目の変更によって弾くことになった作品。かつて、コンクールで演奏されたブラームスのピアノ協奏曲について、私は「内声の動きやシンコペーションなどのリズム表出がややストレートであり、楽譜の読み浅さも感じられた」と記している。そのような側面が、シューマン《謝肉祭》に現われてしまった。20曲を大きな音楽の流れのなかでしっかりとまとめ上げ、美しい音の響きも魅力的であったが、作品のもつ複雑な感情表出や大きな喜怒哀楽があまり感じられず、平板な流れになっていた。楽譜上の音のない空間、例えば音符と音符の間や音程が生み出す高低差のニュアンス、フレーズの間などが十分に読み解けておらず、無機的な印象を与えた感は否めない。楽譜に記された音符の裏側に潜む意味が伝わってこなかったのは大



変残念である。とりわけ文学が題材になっている作品ゆえに、音符と文字との意味連関、そして哲学的な思索を経た演奏があっても良いと思う。

休憩を挟んで、プロコフィエフ《ピアノ・ソナタ 第2番》。彼女の卓越した演奏技巧は、プロコフィエフのモダニズム的なメカニクを物ともせず、エネルギーに突き進んでゆく。また、透き通るような彼女の音の色彩によって、この作品のもつロマンティックな情趣は見事に引き立てられた。その一方で、アイロニカルな一面があっさり表現された点は惜まれる。

プログラムの最後を飾ったのは、ショパン《ピアノ・ソナタ 第3番》。彼女の持ち味が活かされた演奏であった。作品の骨格をスマートに捉えた第1楽章。この楽想のもつ威厳さを誇示することはせず、力みのない自然な息遣いが印象的である。指先の抜群のコントロールを通して粒立ちの揃った美しい音を紡ぎあげた第2楽章、厳かな佇まいのなかにも彼女ならではの柔らかい情感が織り込まれた第3楽章、そしてフィナーレでは音の一つひとつを丹念に鳴り響かせ、堂々とした風格を湛える。アンコールは、グリムカ＝バラキレフ《ひばり》。

すでに自身の表現をもったキム・ヒョンジュン。ひたむきな姿勢で音楽と向かい合い、その気持ちがストレートに演奏に表われており、とても好感もてる。耳の良さや直観的なセンスを備え、歌心も豊かだ。その反面、本能的な感覚のみに頼らず、作曲家が心血を注いで書き起こした譜面が意味するところをもっと深く思索してもらいたい。課題もあるが、今後の成長が実に楽しみなピアニストである。

キム・ヒョンジュン出演

日本フィルハーモニー交響楽団
サンデーコンサートスペシャル

日時：2017年9月18日（月・祝）14:00開演
会場：東京芸術劇場
指揮：下野竜也
ピアノ：キム・ヒョンジュン

管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団
演奏曲目：モーツァルト：ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488 ほか
入場料：S：¥8,000 A：¥6,500 B：¥6,000 C：¥5,000 ほか
主催：公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団
お問い合わせ：日本フィル・サービスセンター 03-5378-5911

キム・ヒョンジュン出演

仙台フィルハーモニー管弦楽団 特別演奏会
「山田和樹 × 仙台フィル vol.5」ホライズン～地平線～

日時：2017年10月22日（日）15:00開演
会場：仙台銀行ホール イズミティ21 大ホール
指揮：山田和樹
ピアノ：キム・ヒョンジュン

管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団
演奏曲目：グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ほか
入場料：チケット S席5,000円、A席4,500円 ほか
主催：公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団
お問い合わせ：仙台フィルサービス Tel:022-225-3934



SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION

■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/